

# 「興味・意欲・態度」の評価についての一考察

## 1 はじめに

先日、中学校の理科の授業を見せてもらいました。授業を見て、かつて、「興味・意欲・態度」の評価が入ったとき、どのように評価をすればよいか、悩んだことを思い出しました。文科省のHPを参考にしながら、改めて、「興味・意欲・態度」の評価について考えてみました。

## 2 観点「興味・意欲・態度」の評価

### (1) 評価内容

○各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身につけているかどうかを評価する。

### (2) 評価規準

A:十分に満足できる    B:おおむね満足できる    C:努力を要する

### (3) 留意点

○授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することのないよう留意する。  
(文部科学省「評価について」より)

## 3 評価の実際

### (1) 基本的な考え方

- ほとんどの生徒は、授業中、学習活動に一生懸命に、ときには、それなりに取り組んでいる。つまり、評価はBである。
- 授業中、学習活動に取り組まない、取り組めない状況である。この場合、評価はCとなる。  
この場合は、個別の指導や教育相談が必要である。生徒指導上の問題で取り組めない状況であるならば、それを解決することが必要である。
- ほとんどの生徒が評価Bであることが前提で、この中から評価Aとなる生徒を探す作業を行う。  
評価Aとなる根拠を探す。

### (2) 評価Aとなる根拠を探す

- ① 「これは！」といった授業を行ったときには、授業の最後に振り返りを書かせる。
  - ・ 本時の学習内容とかかわって「なるほど」「そういうことか」といった分かったことや、「他はどうなっているのかな」「この場合はどうなるのかな」といった疑問を具体的に書く。
  - ・ 「楽しかった」「面白かった」といった感想を書くのではない。
- ※「これは！」といった授業とは
  - ・ 科学的な思考を必要とする学習課題に取り組ませる。意見交流する中で、考えを深めたり広げたりするような展開をする授業
  - ・ 観察や実験の授業
- ② ワークシートやノートの中に、教師から指示されたことに深くかかわって考えたことや、教師の指示以外でも、本時内容にかかわって、自分にとって重要と思われることなどが記載されていないか。
- ③ 授業中、みんなの理解や考えが深まったり広まったりした発言があったときは、発言内容とA○かAかをメモする。

### (3) 元となるデータを数値化して、その合計から観点別評価をAかBかを定める

- ・ 振り返りの記述から、A○、A、B、C、×を明記して生徒に返す。  
記述してあればB。内容により、A○、Aを決める。  
記述内容が不十分であるC。記述がない×。
- ・ 同様に、ワークシートやノートの記述内容から、A○・Aを探し数値化する。
- ・ 授業中の発言内容のメモから、A○・Aを探し数値化する。
- ・ すべての数値を合計して、評価を出す。
- ・ 観点別評価でAかBかで迷ったら、「興味・意欲・態度」に関するエピソードがないか思い返す。

#### (4) その他

- ・ 定期テストの問題に「興味・意欲・態度」に関する問題を入れる。  
→ 具体的にどのような問題にするかは、検討の余地がある。  
例えば、「○○（単元名）の授業の中で、特に印象に残った学習内容とその理由を書きなさい。」
- ・ 定期テストの結果の一定割合を「興味・意欲・態度」の素点にするという方法も考えられる。  
例えば、100点満点のテストでテスト結果が90点だとすると、「興味・意欲・態度」の素点を9点とするのである。動機は何であれ、定期テストの勉強を“課題”と捉え、自らその課題に意欲的に取り組み、その結果として、定期テストに現れたとも考えられる。ただし、定期テストの結果だけをもって、「興味・意欲・態度」の評価をすべきでないことは明らかである。  
かつて、ほとんど発言もせず、ノートもほとんど書かないが、定期テストだけはいつも満点に近い生徒がいた。この生徒には、学習内容に対する「興味・意欲・態度」がまったくないとは考えにくい。

#### 4 おわりに

各観点の評価は多様な方法で行うべきではあるものの、評価のために授業の時間をたくさん費やすべきではないと考えます。やはり、楽しくてよくわかる授業を目指したい。子どもたちが、1時間の授業を夢中になって取り組むような、そんな授業を実践したいものです。